

拝啓 新年が明けたと思いましたが、早や1月下旬となりました。お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、この時期は朝の散歩のとき、芝生の霜に太陽の光がさして、きらきらと宝石箱をばらまいたようにみえる日があります。

今月は、石館守三先生の文章の4回目です。今回は、小西先生のご葬儀の時、石館先生が述べられた弔辞です。小西先生と石館先生の出会いは、大正11年同志会に入り、1年だけ寮で一緒に生活し、2年先輩の小西先生が石館先生を内村鑑三先生とモーク先生のところへお連れしたことでした。卒業後は、小西先生は長く大阪で住まわれましたから、会うこともほとんどありませんでした。昭和22年8月、小西先生は、東京に赴任され同志会に泊まりました。その時石館先生は同志会の理事長に就任されており、そこで再会されました。まことに稀有な出会いでした。その後小西先生は牧師となり、本所緑星教会でうまくいかなくて、石館先生のお宅で教会を開かせて頂きたいとお願いされました。石館先生は、その時一も二もなく賛成した、と述べておられます。昭和20年8月にモーク先生をご自宅に引き受けられたときもそうでしたが、石館先生の決断力はすごいと思います。石館先生のCD-ROM（第4期）が、間もなく出来上がります。石館先生のCD-ROMは、私たちが晩年の生活の目標を立てる上で大いに参考になります。志を立てて、残りの人生を送りたいと思います。

1月9日には、薛恩峰先生のお招きにより、桜美林大学で、南原先生の平和思想について話す機会を頂きました。パワーポイントを使って、分かりやすく話しました。150人ほどの学生さんが、一生懸命聞いてくれました。あとで3人の学生と懇談しましたが、皆さんが、南原先生の勇気に感銘を受けたと言っておられました。我々の受けた教育の中で、勇気ということを教わったことは少なかったし、お手本がなくなっており、すぐれた指摘だと思いました。講演後、少人数で懇談会をもつという方法は、南原先生が、地方に講演に行かれた時のやり方でした。

建設省時代の数人の友人と月に1回、家の近所を散歩する会があります。その中のお一人の福本英三さんは、映画、絵画、歴史など実に教養の広い方で、いろいろ有益な話が聴けます。その福本さんの御すすめで、上野の国立博物館に展示されている長谷川等伯の『松林屏風図』（国宝）を見てきました。福本さんは、この絵が、日本画の最高傑作であるというご意見でした。

それでは、皆様、ノロウィルスによる病気がはやっているようですので、お身体ご自愛ください。お身体御自愛ください。

敬具

平成26年1月25日

山口周三

エンカウンター of 読者各位